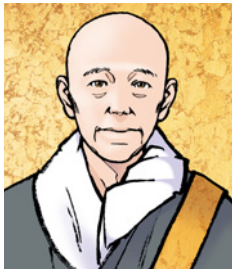
佛立開導日扇聖人物語 第1回



200th Anniversary
佛立開導日扇聖人ご生誕200年慶讃

宗門は平成二十九年四月一日、佛立開導日扇聖人ご生誕二百年をお迎えします。そこで本紙では、ご生誕二百年慶讃ご奉公の一環として、小中学生にも理解できるように「佛立開導日扇聖人物語」と題し、二年間にわたり佛立開導日扇聖人のご一代記を掲載させていただきます。どうぞ、ご家族揃ってお読みください。

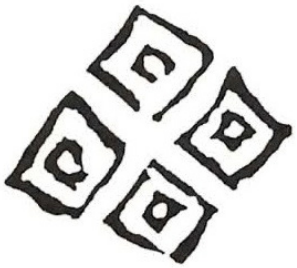
ご誕生

ご誕生と生いたち

開導日扇聖人（以降は開導聖人）は、文化十四年（一八一七）四月一日、京都の蛸薬師室町西入る姥柳町南側の商家・大路家（現在の誕生寺に家があった）に長男として生まれ、遷二郎（のちに仙二郎）と名付けられたんだ。

お父さんは大路家・七代目二郎右衛門浄喜、お母さんは国。しかし、お父さんの浄喜は早く亡くなったので開導聖人はまったく父の顔を知らず、祖父母と母の手でお姉さんのうたと共に育てられたんだ。

大路家は、元禄の末頃（一七〇四）、江州（今の滋賀県）より京（京都市）に出てきて、代々にわたり装身具（身を飾るためのもの）の小間物を売る店を営んでいたんだよ。その店の名は「えびすや」といい、江戸（東京）にも出店するほど繁盛していたんだ。



大路家に伝わった定紋を図柄で画かれて「七つわり角立四ツ目」と記されている。上記の図柄は開導聖人お手描きのもの。

なみなみならぬ才能を発揮した仙二郎少年

なみなみならぬ才能を発揮

大路家の当主は、代々が「二郎右衛門」と名乗り、宗旨は浄土宗。町内第一の旧家（古くから続く由緒ある家系の家）として知られていたんだ。

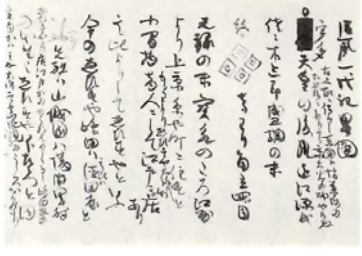
また大路家の代々の当主は、平家琵琶、書、画、歌道と文学に勝れていたんだ。仙二郎少年（開導聖人）も幼少の頃から、学芸の面で勝れた素質を持っていて、書、画、国書、漢籍（中国の書物）を学び、なみなみならぬ才能をあらわされていったんだ。

七歳　仙二郎少年は七歳で、粟田流の書道で有名な円山存古斎（正阿弥）をお師匠として四年間書道を学び、同時に儒者（中国古代の思想を研究する人）・奥田佐二右衛門氏から漢籍を学ばれたんだよ。

九歳　白井華陽氏のところで絵を勉強されるんだ。華陽氏は「花鳥画」（花・鳥・虫などを描く中国・日本の絵画）の名手なんだけど、仙二郎少年のことをとても可愛がられ、わが子のように大事にされたんだ。

十歳　文政九年（一八二六）、わずか十歳で、『平安人物誌』という当時の文人名鑑（すぐれた学芸者の名簿）の書（書道）と画（絵画）の部に、お名前が載るほどだったんだ。仙二郎少年のその才能には唯々おどろくばかりだね。

（つづく）



開導聖人御自筆の御一代記
「清風一代記略図」―御自画伝―
（扇全5巻149頁）

誕生寺正面
京都市中京区蛸薬師室町西入る姥柳町

誕生寺内にある「産湯の井戸」の跡
この井戸の跡が唯一往時を偲ばせるもの